

# 画一的論調に 流されず 本質を見極めて

日本経済は東京一極に集中していて、これでは地方が疲弊してしまいます。大阪、京都、神戸が手を結び、関西が広域連携に力を尽くして元気を取り戻さなければ日本の活性化はありません。広域連携の象徴的なプロジェクトとして、関西・伊丹・神戸の3空港問題、スーパー中枢港湾に指定された阪神港の整備、大阪湾岸道路の西部延伸、第二名神高速道路といった道路網の整備の3つがあげられるでしょう。

大きな空港がアジア各国に整備されている今、関西も空港を強化しなければなりません。3空港問題に関しては、供給過剰ではという声も聞かれますが、今は関西経済がよくないのでそうみえているだけです。経済が元に戻り、成長してくると必ず3空港が必要になります。今の経済状態のままであることを想定しては状況が改善した時に間に合いません。公共投資は経済成長を先取りして考えなければならないのです。港湾問題については、アジア各国にできた大きくて利便性の高い港湾が、需要を日本から奪っており、神戸港の荷扱い量は回復したとはいえ、震災前の8割です。スーパー中枢港湾に指定されたことを受け、港湾コストの3割削減、リードタイムを1日に短縮することなどを目標に、より使いやすい港湾への整備が進められています。道路網の整備としては、すでに途中まで完成している大阪湾岸道路の延伸は投資効果が非常に高いですし、第二名神高速道路の実現も欠かせません。

国の財政再建の問題とからんで公共工事はすべて悪であり、公共投資はもう必要ないという風潮には危機感を覚えます。今は金の借り手がなく、金融機関は余った金で国債を買っていて、その資金が公共工事や財政支出に使われています。金利も限りなくゼロに近く、今なら公共工事を低コストで行うことが可能です。本当に必要で投資効果の高い公共工事はやるべきだし、



水越 浩士氏

Koshi Mizukoshi  
神戸製鋼所会長

今はその絶好のチャンスなのです。

神戸では医療産業都市構想がかなり進展していますが、これも大阪や京都の医療クラスターとの広域連携を強化し、アジアのメディカルセンターとならなければいけません。この構想は神戸や兵庫の重厚長大型の産業構造を変革しなければという発想から生まれたものですが、重厚長大産業は付加価値が低く、つまらない産業だという認識は間違っています。日本の重厚長大産業はすでにハイテク化し、日本でしか作れない製品を作り出しています。これからは既存の産業の高級化・ハイテク化をさらに進め、付加価値を高めて伸ばしていくという観点に立つべきです。

今の日本経済は、大企業を中心とした製造業が活況を呈していて、アップトレンドにあります。中小企業、非製造業は回復基調の恩恵をまだ受けられておらず、景気が踊り場脱却に向かっていると手放しで喜ぶのは時期尚早です。景気がよくなったと判断して、財政出動をやめ、増税路線で財政再建に走ってしまうと経済のメルトダウンが起こる可能性があります。昨今、声高に叫ばれている財政再建や郵政民営化は必要不可欠ですが、今はその時期ではありません。財政再建は景気がすっかりよくなってから始めるべきで、まずは増税よりも景気振興を行い、税収を上げることが先決です。郵政民営化も金余りの状態の今ではなく、民間に資金が必要になってから行うことに意味があります。何事もタイミングの見極めが重要だと思います。

談